

ミニ・ラグビーの競技規則

今年度、ミニ・ラグビーの競技規則は全面的な書き換え及び改正を行った。

以下に示す以外の競技規則に関しては、日本ラグビーフットボール協会制定の本年度競技規則及び高専・高校以下の為の特別競技規則、ジュニア・ラグビーの競技規則の該当する条項に準ずるものとする。

低学年用（小学校1・2年、U7 - 8）

プレーヤー

プレーヤーは各学年別にグループ分けすることを原則とする。

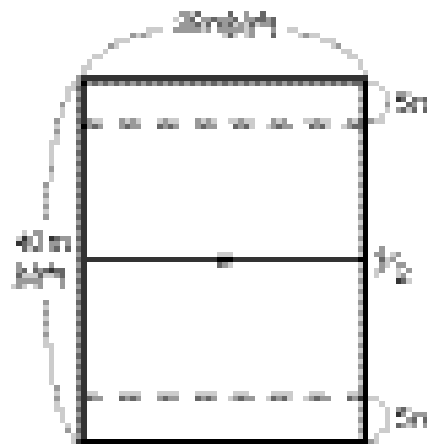
チーム

チームは5人(フォワード1人、ハーフバック1人、バックス3人)により構成される。

競技場

フィールドオブプレーの広さは以下のとおりとする。
ゴールポストは使用しない。

40メートル以内×28メートル以内



試合時間

10分ハーフ以内とする。

ボール

3号ボールを使用する。

競技方法

1. キックオフ及びドロップアウト

キックオフ、ドロップアウトは行わず、代わりにキックオフはハーフウェイライン中央において、ドロップアウトはゴールライン中央より5メートルフィールドオブプレーに入った地点にて、タップキックからのパスとする。その際、相手側はタップキックの行われる地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がらなくてはならない。

得点後のキックオフは、得点された側のチームがハーフウェイライン中央において、タップキックが

らのパスとする。

2 . キック

プレーを開始及び再開するためのタップキック以外のキックは禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。

3 . スクラム

スクラムは以下のように行う。

- (1) スクラムはフロントロー 1 人で構成する。
- (2) スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をスクエア(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組み合う。その際、お互いのフロントローは、左手は相手フロントローの右腕の内側、右腕は相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージーの背中または脇をつかむ。
- (3) 頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。
- (4) スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。
- (5) ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめプレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールを右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。

- (6) 防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレイヤーの後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレイヤーはハーフバックではなく、バックスと見なされる。
- (7) 防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレイヤーの後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。

4 . ラインアウト

ラインアウトは行わない。ボールがタッチになった場合、タッチになった地点がゴールラインから5メートル以内の場合はゴールラインから5メートルの地点より、それ以外はタッチになった地点より、投入側のプレイヤーが味方側にパスを行う。その際相手側はボールがタッチになった地点より3メートル下がり、ボールの投入を妨害してはならない。

5 . ゴールキック

トライ後のゴールキックは行わない。

6 . ファールプレー及びペナルティ

防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回すプレー、ボールを持っているプレイヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラ

インの外に突き出したりするプレー、フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるようなプレー）はいずれも危険な行為であり、ファールプレーである。

すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がるか、反則のあった地点がゴールラインから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレーヤーは、ボールを明確に蹴らなくてはならない。

【補 足】

- 1 . 各チーム1名のコーチがグラウンドに入ることが許される。しかしゲーム中そのコーチは、自軍の最後尾のプレーヤーより後方に留まらなくてはならない。そのコーチの発言は建設的なものでなくてはならず、ヒステリックに怒鳴ってはならない。
- 2 . ミニ・ラグビーにおけるタップキックとは、ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。

- 3 . スクラムでは、プレーヤーの習熟度に応じて、頭を組み入れずお互いの上腕をつかみあうハンドスクラムを行うことができる。
- 4 . 防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまたはフリーキックにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」に相当し、競技規則に反するプレーである。

中 学 年 用 (小 学 校 3 ・ 4 年 、 U 9 - 10)

プレーヤー

プレーヤーは各学年別にグループ分けすることを原則とする。

チーム

チームは7人(フォワード3人、ハーフバック1人、バックス3人)により構成される。

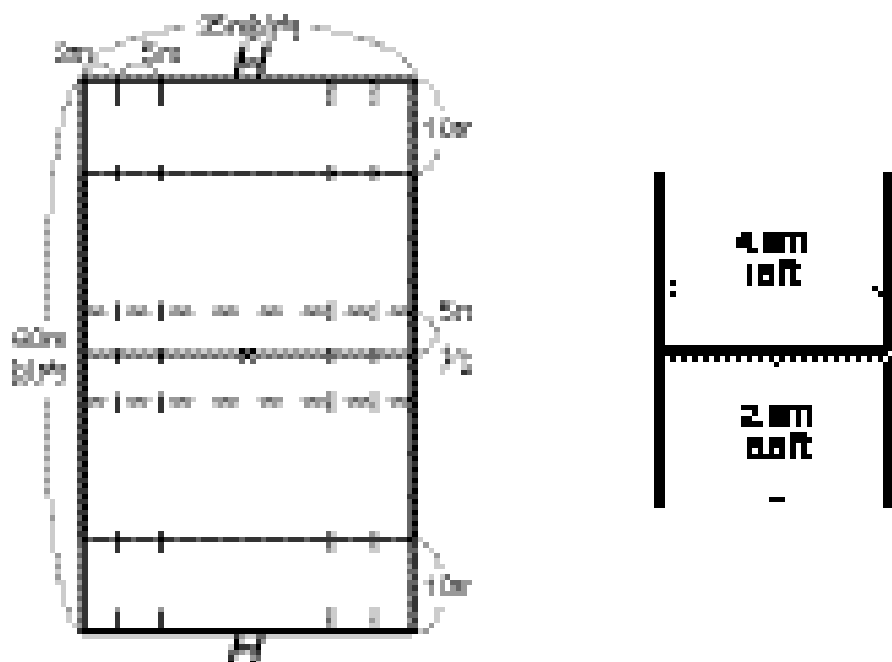
競技場

フィールドオブプレーの広さ及びゴールポストの大

きさは以下のとおりとする。

フィールドオブプレー

60メートル以内 × 35メートル以内



ゴールポスト

地面からクロスバーの上部までの高さ 2.6メートル

ゴールポストの内側の幅 4.6メートル

試合時間

15分ハーフ以内とする。

ボール

3号ボールあるいは4号ボールを使用する。

競技方法

1. キックオフ及びドロップアウト

キックオフはハーフウェイラインの中央から、ドロップアウトは10メートルライン上あるいはその後方から、それぞれ行う。得点後のキックオフは、得点した側のチームがハーフウェイラインの中央、またはその後方から行う。キックは、ドロップキックあるいはプレスキックのいずれでもかまわない。ドロップアウトはプレスキックが許される。キックオフは相手側の5メートルラインに達しなくてはならない。

2 . キック

ボールを手で保持した状況から以外のキック(地上にあるボールを蹴るようなキック)は禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。

プレー中、ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。しかし「フライキック」と言われるものは、いかなる地域からも違法である。そのようなキックが行われた場合、キックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。(「フライキック」とは、見境のないコントロールされないキックと定義される。)

10メートルラインの外からのキックが直接タッチ

に出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。

3 . スクラム

スクラムは以下のように行う。

- (1) スクラムはフロントロー 3 人で形成される。
- (2) フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。
- (3) フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりとわきの高さか、またはその下をつかまなければいけない(いわゆるフッカーのオーバーオーバーの組み方)。プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはならない。
- (4) スクラムを組み合う際、双方のプロップは左右の足の位置をスクエア(前後しない)にして、相対するプロップの腕に軽く触れ、その後穏やかに組み合う。
- (5) すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。
- (6) スクラムを形成するプレーヤーは、スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。
- (7) ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめフッカーの右足元(つま先の前)にボールを保持す

る。そのボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。

- (8) 防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックスと見なされる。
- (9) 防御側のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。

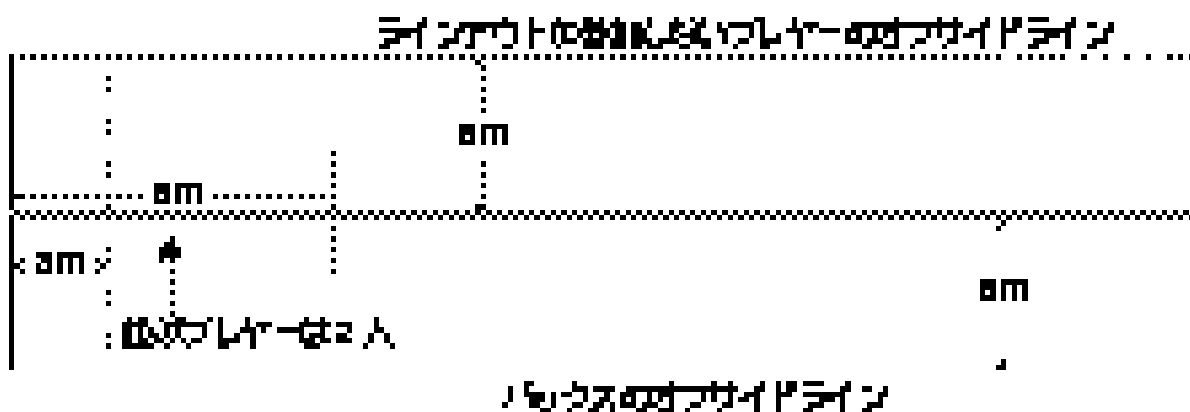
4 . ラインアウト

ラインアウトは以下のように行う

- (1) ボールがタッチになった場合、ボールが投入されるタッチラインの地点より3メートルから8メートルの間で、ラインアウトが形成される。
- (2) ラインアウトに並ぶプレーヤーは2人である。
- (3) 双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間がなくてはならない。
- (4) ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がジャンプしてボールを取る。
- (5) ボール取ったプレーヤーは必ずスクラムハーフに

ボールを出さなくてはならない。

- (6) ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから少なくとも5メートルは下がっていかなくてはならない。



5 . ゴールキック

トライ後のゴールキックは、ゴール正面から行う。

6 . ファールプレー及びペナルティ

防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回すプレー、ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりするプレー、フェンドオフ(腕を横に振り、相手を払い除けるようなプレー)はいずれも危険な行為であり、ファールプレーである。

すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。そ

の際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がるか、反則のあった地点がゴールラインから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレイヤーは、ボールを明確に蹴らなくてはならない。

【補 足】

- 1 . ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポートイングプレーは禁止とする。
- 2 . ミニ・ラグビーにおけるタップキックとは、ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。
- 3 . 防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレイヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまたはフリーキックにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」に相当し、競技規則に反するプレーである。

高学年用(小学校5・6年、U 11 - 12)

プレイヤー

プレイヤーは各学年別にグループ分けすることを原則とする。

チーム

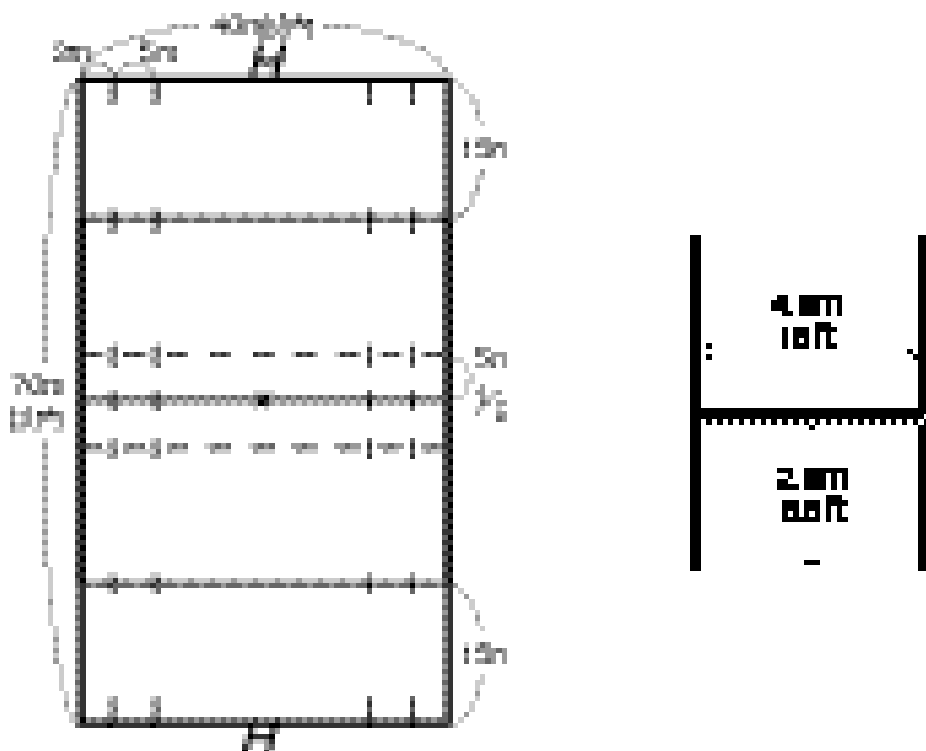
チームは9人(フォワード3人、ハーフバック2人、バックス4人)により構成される。

競技場

フィールドオブプレーの広さ及びゴールポストの大きさは以下のとおりとする。

フィールドオブプレー

60メートル以内×40メートル以内



ゴールポスト

地面からクロスバーの上部までの高さ 2.6メートル

ゴールポストの内側の幅 4.6メートル

試合時間

20分ハーフ以内とする。

ボール

4号ボールを使用する。

競技方法

1. キックオフ及びドロップアウト

キックオフはハーフウェイラインの中央から、ドロップアウトは15メートルライン上あるいはその後方から、それぞれ行う。得点後のキックオフは、得点した側のチームがハーフウェイラインの中央、またはその後方から行う。キックオフは相手側の5メートルラインに達しなくてはならない。

2. キック

ダイレクトタッチは15メートルライン内からのみ許される。しかし「フライキック」と言われるものは、いかなる地域からも違法である。そのようなキックが行われた場合、キックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。（「フライキック」とは、見境のないコントロールされないキックと定義される。

普通は地上にあるボールをキックする場合に起きる。)ボールをドリブルすることは許される。

15メートルラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。

3 . スクラム

スクラムは以下のように行う。

- (1) スクラムはフロントロー 3 人で形成される。
- (2) フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。
- (3) フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりとわきの高さか、またはその下をつかまなければいけない(いわゆるフッカーのオーバーバインドの組み方)。プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはならない。
- (4) スクラムを組み合う際、双方のプロップは左右の足の位置をスクエア(前後しない)にして、相対するプロップの腕に軽く触れ、その後穏やかに組み合う。
- (5) すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。
- (6) スクラムを形成するプレーヤーは、スクラムが終

- 了するまでバインドしていなければならない。
- (7) スクラムは「ノンコンテストスクラム」であり、ボールの取り合い、押し合いはなく、ボール投入側が必ずボールを獲得する。ただしボール投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける。
 - (8) スクラムへのボールの投入は、ハーフバックのいずれかが行い、ボールを投入するハーフバック(プッター)は、投入後は直ちにオンサイドの位置に戻らなければならない。もう一人のハーフバック(パッサー)は、ボール投入時に必ずスクラムの後方に位置し、スクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなければならない。
 - (9) パッサーが故意でなく最初にボールをプレーすることができなかった場合、パッサーを越えたボールについては、いかなるプレーヤーもプレーすることができる。
 - (10) スクラムで相手ボールを獲得した場合、獲得した側のチームはスクラムを形成しているプレーヤー以外のどのプレーヤーも、スクラムから出たボールをプレーすることができる。
 - (11) スクラムにおいてボールを投入しない側(防御側)

のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックスと見なされる。

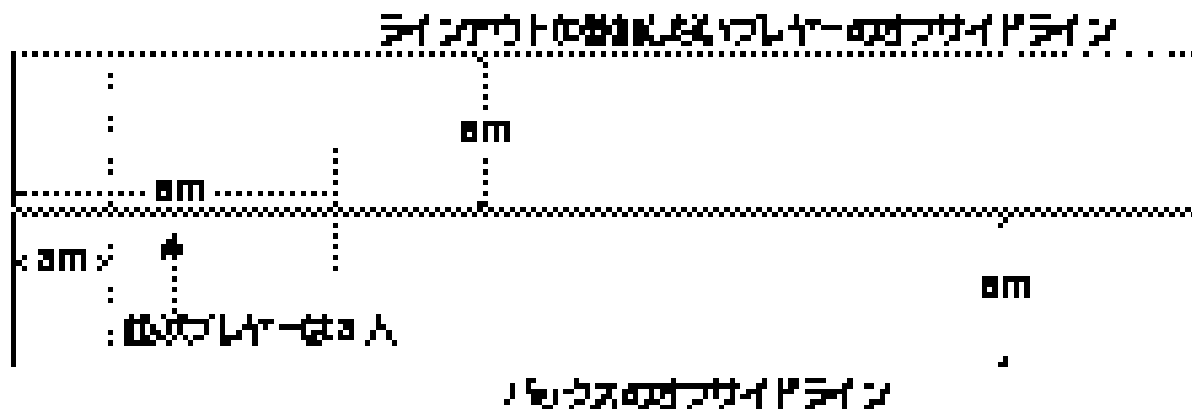
- (12) スクラムにおいてボールを投入しない側(防御側)のバックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。

4 . ラインアウト

ラインアウトは以下のように行う

- (1) ボールがタッチになった場合、ボールが投入されるタッチラインの地点より3メートルから8メートルの間で、ラインアウトが形成される。
- (2) ラインアウトに並ぶプレーヤーは3人である。
- (3) 双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間がなくてはならない。
- (4) ボールを獲得しなかった側のいかなるプレーヤーもラインアウトが終了するまで、ラインアウトを割って出てはいけない。
- (5) ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから

少なくとも5メートルは下がっていなくてはならない。



5 . ゴールキック

トライ後のゴールキックは、トライをした地点を通りタッチラインに平行した線上から行う。

6 . ファールプレー及びペナルティ

防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回すプレー、ボールを持っているプレイヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりするプレー、フェンドオフ（腕を横に振り、相手を払い除けるようなプレー）はいずれも危険な行為であり、ファールプレーである。

すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタップキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールライン

に平行して少なくとも5メートル下がるか、反則のあった地点がゴールラインから5メートルない場合は、ゴールラインまで下がらなくてはならない。フリーキックも同様である。なおペナルティキックあるいはフリーキックにおいてタップキックするプレーヤーは、ボールを明確に蹴らなくてはならない。

【補 足】

- 1 . ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポートイングプレーは禁止とする。
- 2 . ミニ・ラグビーにおけるタップキックとは、ボールを地面に置き、いずれかの方向にボールを明確に蹴り進めることであり、手の中のボールをチョンと蹴ることではない。
- 3 . 防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまたはフリーキックにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」に相当し、競技規則に反するプレーである。